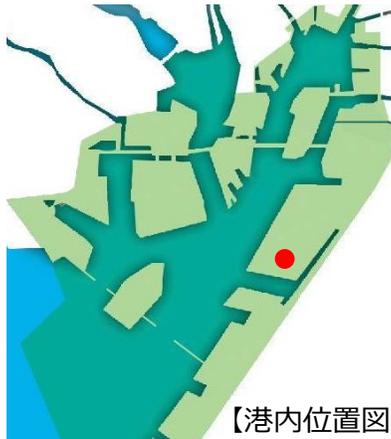


# 東海元浜ふ頭・横須賀ふ頭



## 官民一体で鉄鋼一貫体制の製鉄所を誘致

所在地である東海市の面積のおよそ 6 分の 1 を占める港内最大のふ頭で、巨大な製鉄所が立地しています。

中部は戦前から京浜、阪神と並ぶ工業地帯の 1 つでしたが、戦後、東海地方には特殊鋼メーカーが多い反面、普通鋼材を供給する高炉メーカーがなく、製鉄業がその産業構造の弱点とも言われていました。

そこで官民が一体となって、鉄鋼一貫体制の製鉄所誘致活動が展開され、昭和 33 年、富士製鉄株式会社と愛知県、地元財界の共同出資による東海製鉄株式会社が誕生。地盤の固いこの地に工場が建設されました。現在の工場の規模は、周囲約 10km、東西約 2km、南北約 3km に及びます。



以後、この製鉄所を軸に、鉄鋼、電力、石油、化学の複合コンビナートが名古屋港南部地域に形成されていきました。

東海製鉄株式会社はその後、富士製鉄株式会社、八幡製鉄株式会社との合併により、新日本製鉄株式会社名古屋製鉄所が発足。さらに平成 24 年に住友金属工業株式会社と経営統合し、新日鐵住金株式会社となり、平成 31 年 4 月に日本製鉄株式会社に商号変更。

## 港内最大の鉄鉱石・石炭の原料基地

### 延長約 1 キロの原料岸壁に大型原料船 2 隻が接岸

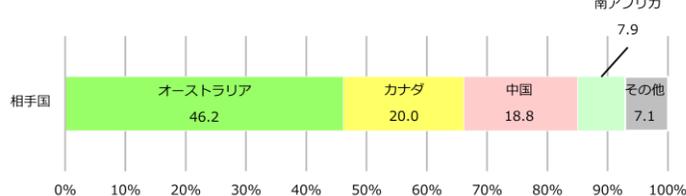
製鉄所には水深 13~14m、総延長 990m の原料岸壁と、1,323m の製品岸壁（外国貿易船用 873m：水深 10~12m、国内船用 450m：水深 4.5~7.5m）が備わっています。原料岸壁には、大型船が 2 隻同時に係留でき、大型アンローダーを使って最大約 16.8 万トン/日の鉄鉱石や石炭を降ろすことができます。港内取扱の鉄鉱石と石炭のほとんどはここから輸入されています。製品岸壁からは、コイル、鋼管、鋼板などが大型クレーンにより積み出されています。

このふ頭内には日本製鉄株式会社のほか、大同特殊鋼株式会社が、また北対岸のふ頭には愛知製鋼株式会社などの特殊鋼メーカーが立地しています。

●石炭輸入 512万トン（品種別取扱港内比率 94.2%）



●鉄鉱石輸入 942万トン（品種別取扱港内比率 100.0%）



## エリア基本データ

ふ頭名称	東海元浜	横須賀
旧名称	南 2 区	変わらず
臨港地区面積	741.9ha	8.1ha
理立完成時期		
東海元浜	S33.7.23~S50.12.22	
横須賀	S33.7.23~S61.12.25	
バース水深		
東海元浜	4.5~14m	
横須賀	4.5m	

民間計（東海元浜ふ頭周辺）

係留隻数 3,405隻  
取扱量と品種



公共岸壁（横須賀ふ頭）

係留隻数 308隻  
取扱量と品種

